

# ぶら探訪

その30

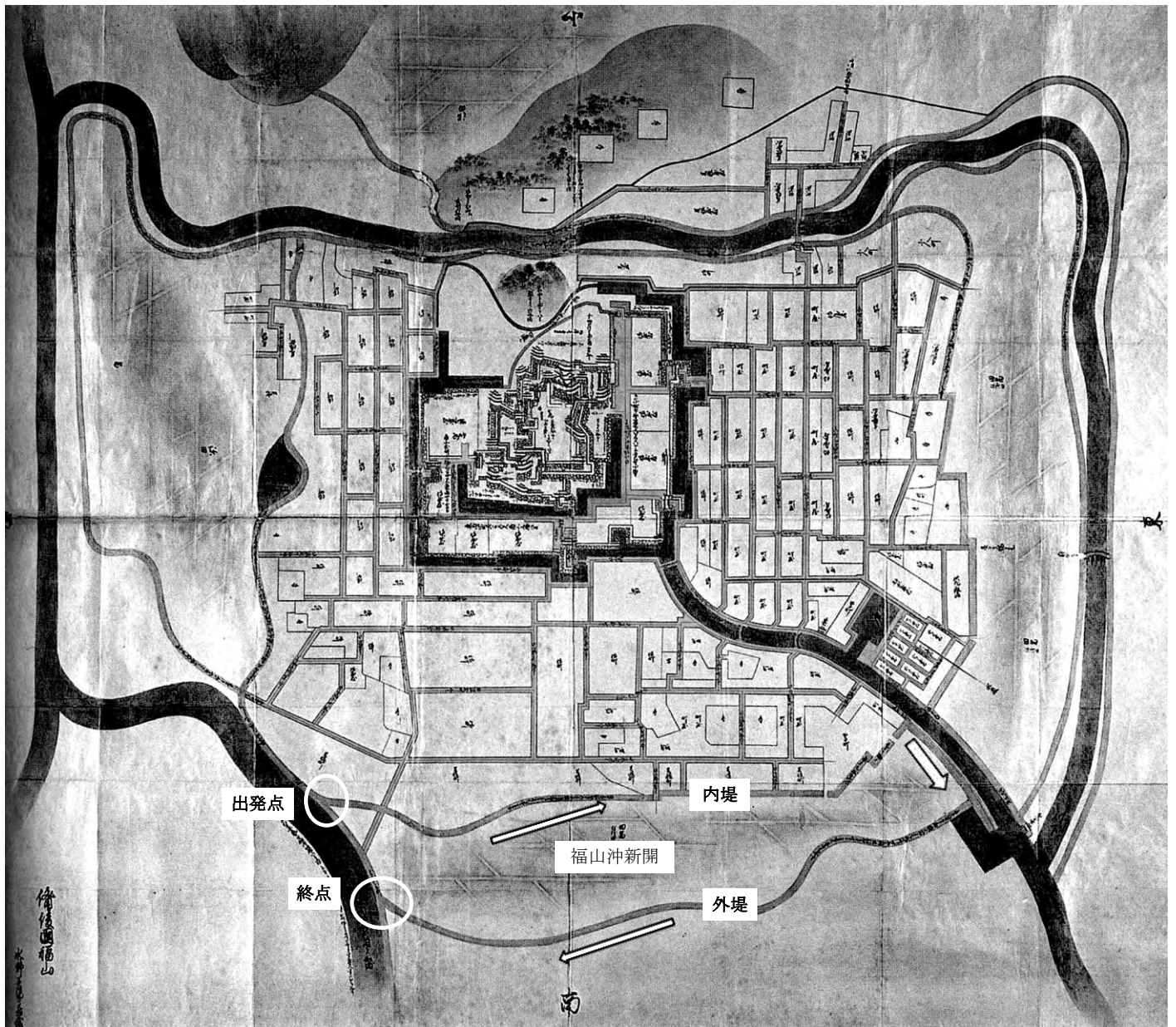
## 正保城絵図に描かれた城下町南を歩く

講師 瀬良泰三



平成27(2015)年5月23日

## 正保城絵図と今日のルート



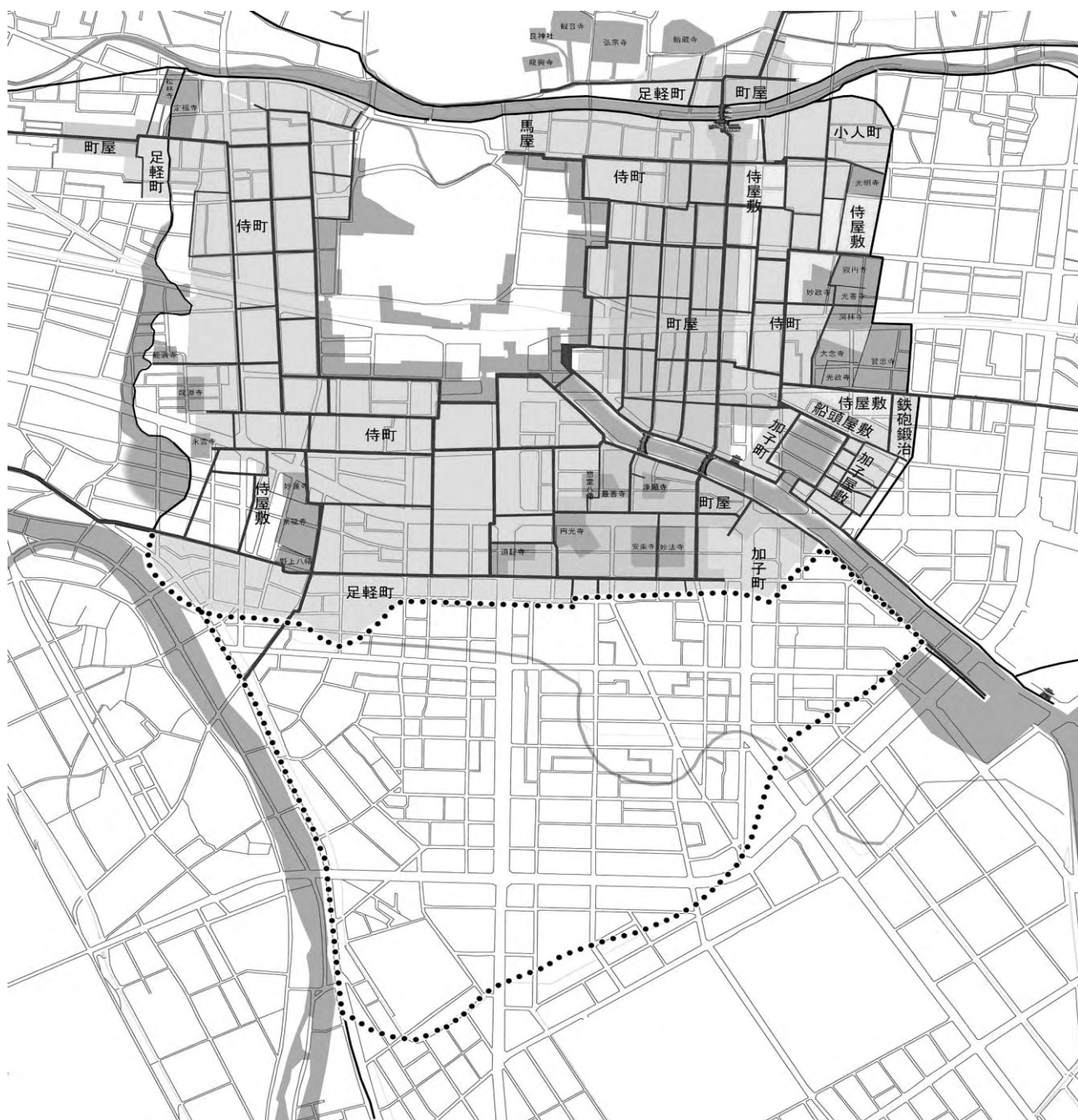
### 正保城絵図（備後国福山）

正保城絵図は、正保元年(1644年)に幕府が諸藩に命じて作成させた城下町の地図で、城郭内の建造物、石垣の高さ、堀の幅や水深などの軍事情報などが精密に描かれているほか、城下の町割・山川の位置・形が詳細に載されている。各藩は幕府の命を受けてから数年で絵図を提出し、幕府はこれを早くから紅葉山文庫に収蔵した。

折り畳んだ表面の中央に「備後国／福山城絵圖」、左下隅に「水野美作守」の墨書があり、左上隅に朱筆で「百二十四」と記されている(総数は157舗―幕末には131舗残存―であったと言われている)。図の大きさは、東西二米四十糎・南北二米八糎で、南西隅に「備後國福山／水野美作守居城」と墨書されている。本図にみえる「水野美作守」は水野勝俊で、寛永16(1639)年に襲封、明暦元(1655)年に没している。(国立公文書館説明より)

この絵図は、福山城が出来て22年目の姿で、福山城下町を描いた絵図では最も古いものである。

## 正保期城下町と現在の地図との重ね合わせ

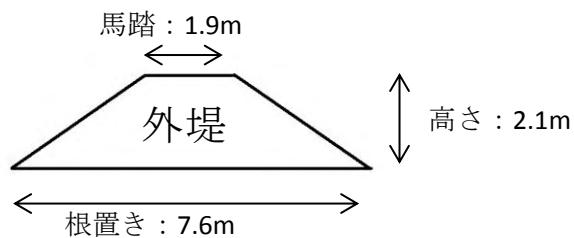
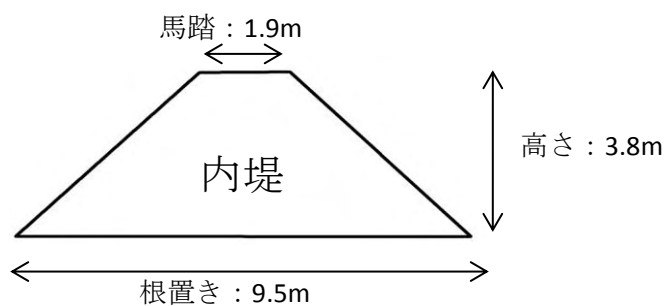


点線が今日歩く正保城絵図の堤跡

堤の形状

内堤: 祢おき五尋高式間上ならしにて壱尋  
外堤: 祢おき四尋高七尺上にて壱尋

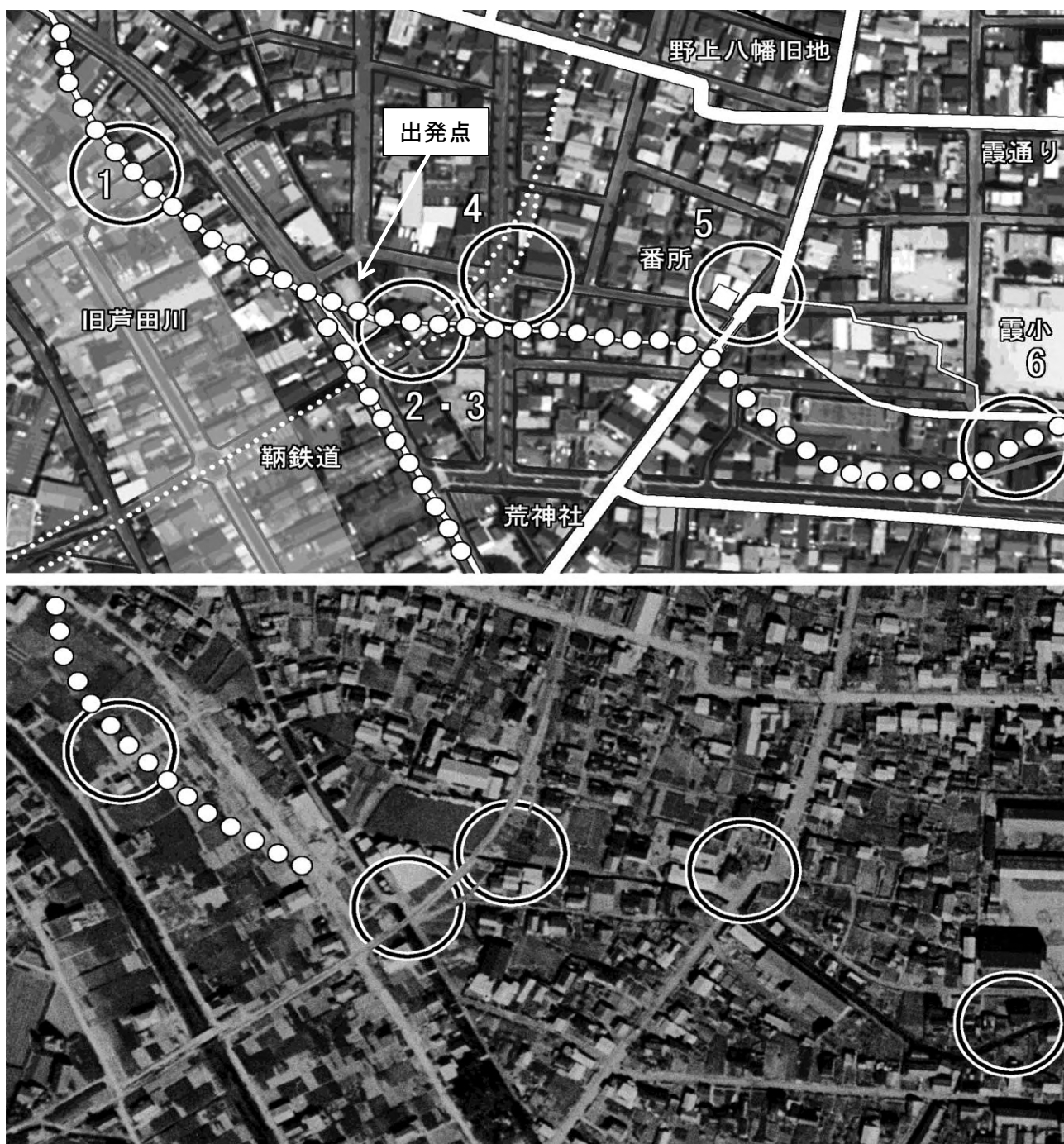
(正保城絵図記述)





## 内堤西部詳細

上は現在、下は昭和22年米軍撮影の航空写真。白い線は水野期末頃の城下町の道。(以下同じ)  
大きな点線は堤(土手)のライン。小さな点線は韃鉄道。



### 1. 江戸時代～大正8年 決壊前までの芦田川堤位置

お米土手: この地は「米が粹」「米川区」「米が沖」と呼ばれた地で、芦田川下流で最も川幅が狭い場所。  
「人柱お米」の伝説の場所であり「お米明神」の祠が有ったと言う。決壊の復旧後、拡幅された。

…(前略)…第一期工事より第三期工事に至って、堤防は従前のものより以上に堅牢に完成せるが、此の地は激流北より突破する衝に當り、而も河幅狭く、堤脚曲出して治水上不合理なるより、縣土木課は更に改修を設計し、新堤防全部を取除いて河幅を廣き處にて十四間擴げ、水勢に従ふて圓曲に凹入せる大堤防二百十間を築くの萬全なるを策し、市は双手之に賛し、堤防又河床たるべき敷地全部を寄附提供することに市會に於て議決せり。時に大正九年二月十四日なり。…(中略)…  
改修新堤防は縣直營にて福山土木出張所之を管督し、二月十日起工、十二月竣成、全く舊觀を改むるに至れり。堤脚根張、馬踏とも頗る廣く、河床に護岸沈床工事を施せり。現在のものは是れなり。

(濱本鶴實: 福山水害誌より)



大正5年の地形図。川側に張り出した堤防と、その延長が下出川を突っ切るのがわかる。  
(国土地理院地形図より)



道三川をわたる靱軽便鉄道のガソリンカー(写真説明書きによる)  
(水呑町の史跡巡り webより)

## 2. 土手の延長上に残る斜め橋

昭和22年航空写真に下井出川に斜めに架かった橋が写っている。この橋とその延長上の道が旧内堤跡。斜めに架かった橋の南側基部が残る。

## 3. 旧靱軽便鉄道橋脚跡

靱軽便鉄道が下井出川を渡った場所であるが、南側橋脚跡のみ残る。

昭和22年航空写真を見ると、旧芦田川をはさんで当時の線路と、旧線路跡の2本の路線が認められる。つまり鉄道の路線は芦田川改修前後で付け替えられている。これは線路付け替えの工法の問題(線路切替の工期短縮にはあらかじめ廃川地に線路を引く必要があり、使用中の鉄橋の真下は避けた)や、改修前は広い芦田川をできるだけ直角に鉄橋で渡る為や、又そこに上がるまでの距離を稼ぎ勾配を緩くする等を考えた設計であったが、改修後は川が無くなったためその必要が無くなり、緩やかなカーブに付け替えた為と思われる。

この現在残っている橋脚の跡は改修後のもの。

上記写真の道三川にかかる橋でも橋脚は同様な切込みがあるのがわかる。

## 4. 道三川をわたる靱軽便鉄道のガソリンカー

西から東を撮った写真と思われ昔の道三川とそれにかかる鉄橋、ガソリンカーが写っている。

芦田川改修前だとこのあたりは土手に駆け上っていく築堤の途中で坂のはずなので、鷹取川が廃川となり、土手が撤去され勾配が無くなった後の写真と思われる。

右の建物は大正酒造と説明書きにある。

## 5. 山田街道屈曲部と番所跡

靱方面に行く街道であった山田街道に設けられた口留番所。惣構えの出入り口であり、ここまでが城下町。道も現在は斜めに付け替えられているが、戦災後区画整理までは昭和22年航空写真のように屈曲していた。この道を少し北に行き、霞通りの交差点が「西霞町追分」であり道標がある。

その北西部分が野上八幡宮旧地(両社八幡宮の西の宮)。

## 6. 道三川屈曲の痕跡

道三川は現霞小学校の南西あたりでU字型に屈曲していた。その斜め部分が一部残る。

すぐ北の通り(霞小学校南)の通りは道三川との間が高藪(土手)であったため、藪小路と呼ばれていた。

## 道三川

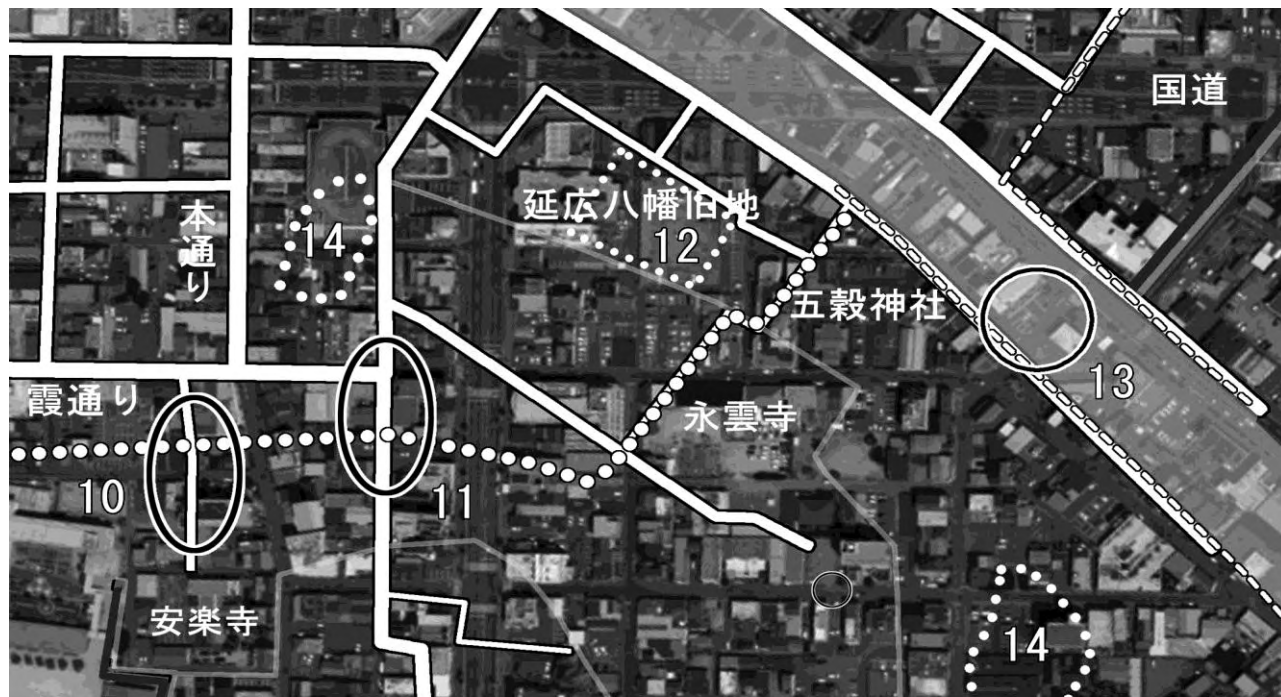
道三川は城下町建設以前は福山平野・干潟を流れていた芦田川の一支流であったと思われるが、城下町建設以後は惣構えの堤の外縁をなす堀としての役目も持っていた。またその南に作られた福山沖新開への用水だけでなく排水までも受け持つ川でもあった。その為役を終えた近年までにはほとんどドブ川状態となっていたが、平成2年(1990)度より開始された福山市の水辺環境整備事業により現在は魚も住める環境となっている。(平成6年(1994)第5回都市景観大賞)  
もともと全て下井出川から受水していたが、今は僅かであり、主に別途地下水をくみ上げ流している。

## 内堤中央部詳細



7. 当時の道が現在も道として残る。  
江戸時代は道三川を起点に北に延び、現在の市役所を突っ切ってお堀端まで伸びていた。  
霞通りで見通せないよう屈曲している。
  8. 御下屋敷裏門跡  
堤の屈曲の部分が後の御下屋敷裏門となる。正保城絵図で堤を道が突っ切って書かれているのはここだけ。  
山城志21集(福山城の藩主屋敷について・田中)で論考されているように正保初期の時点ですでに御下屋敷の造成が進められていることを示しているようである。  
御下屋敷が出来たことで惣構えの堤(土塁)は御下屋敷の南(道三川の北)まで移築される。
  9. 当時の道が現在も道として残る。  
霞通りから堤までの短い路地として正保城絵図に記載。排水路に付随する道と思われる。
  10. 安楽寺に通じる参道跡。  
現在の道路上に痕跡が盛り上がりとして残る。安楽寺と妙法寺は干拓完了を待って、この堤の南に遷される。そこに続く参道で当時安楽寺にはこの道しかなかった。
  11. 霞通り東端と南に向かう道  
霞通りもここまで来るとこの先は低湿地となり、ここで終わっていた。  
ここから南北に道が伸びるが、この両側が「福德町(さいわいまち)」である。  
福山沖新開が出来るとこの南に妙法寺が遷される。(当時は何も無い田地の真ん中であつた)
- 今の寺地の邊ハ民家もなく渺々たる平田なり。宗休公眺望し給ひて日意に被仰けるは、城下より遼なる田の中に寺を建立せらるゝことよ、町近所の向寄能地を望れよかしと有ければ、今こそ田の中にて候へ、御城下日を追て繁榮し候へハ、年を不經而、市家建續候半事必定に御座候と被申けれハ甚御悦喜有けるとそ。誠に日意の言給ふことく、市中の寺とハなり侍り(備陽六郡志)
- ここを道なりに南に行くと妙法寺沖の口留番所に出る。
12. 延広八幡宮旧地  
福山築城の時、惣堂八幡として宮の小路に建立されたが、寛永18年(1641)火事によりここ新町に移された。  
寛文2年(1662)「水野家家中騒動」があり「そうどう」の音を嫌って「延広八幡宮」と改称。  
天和3年(1683)に城下南西の野上八幡宮とともに吉津川北岸の松山に移転され「東の宮」と呼ばれる。  
元禄12年(1699)この脇の小屋から出火し神島町は3軒のみ残るという大火となった。

## 内堤東部詳細



### 13. 入江の橋の跡

昭和になって以降入江は徐々に埋め立てられていくが、中央部には排水路が作られていた。現在水路は無くなったが、そこに架けられていた橋の欄干だけが忘れられたように残っている。

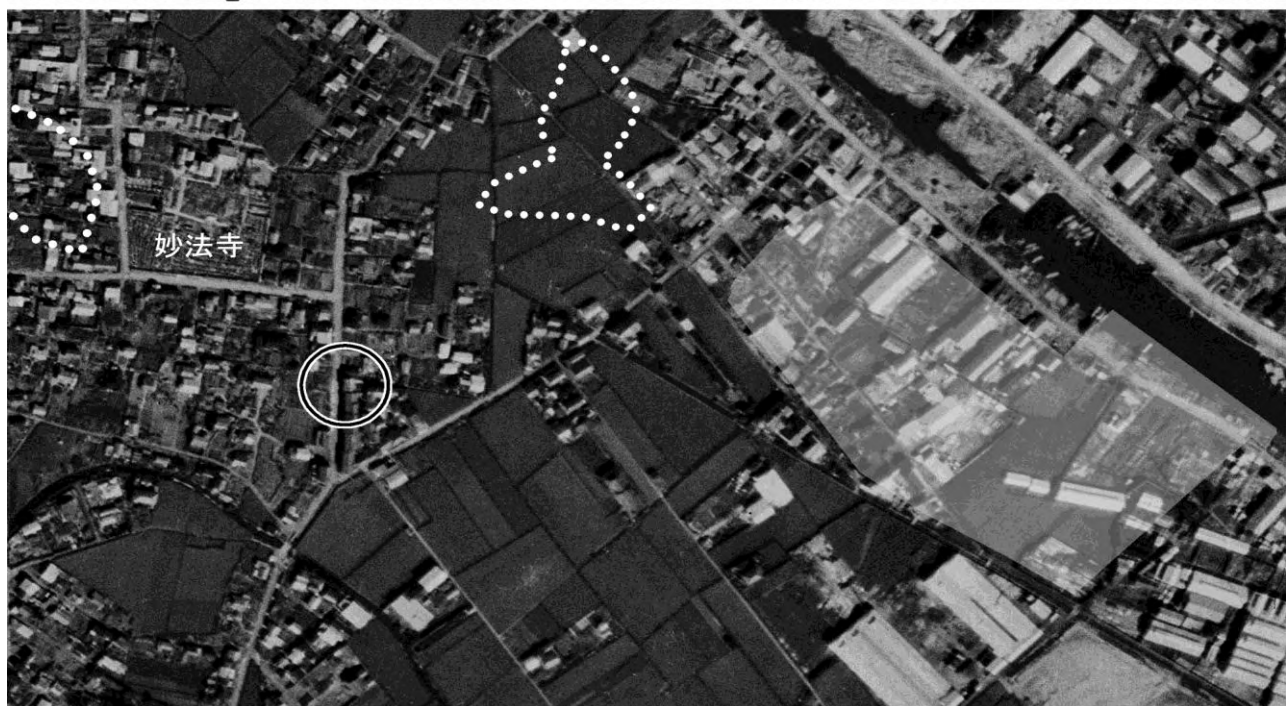
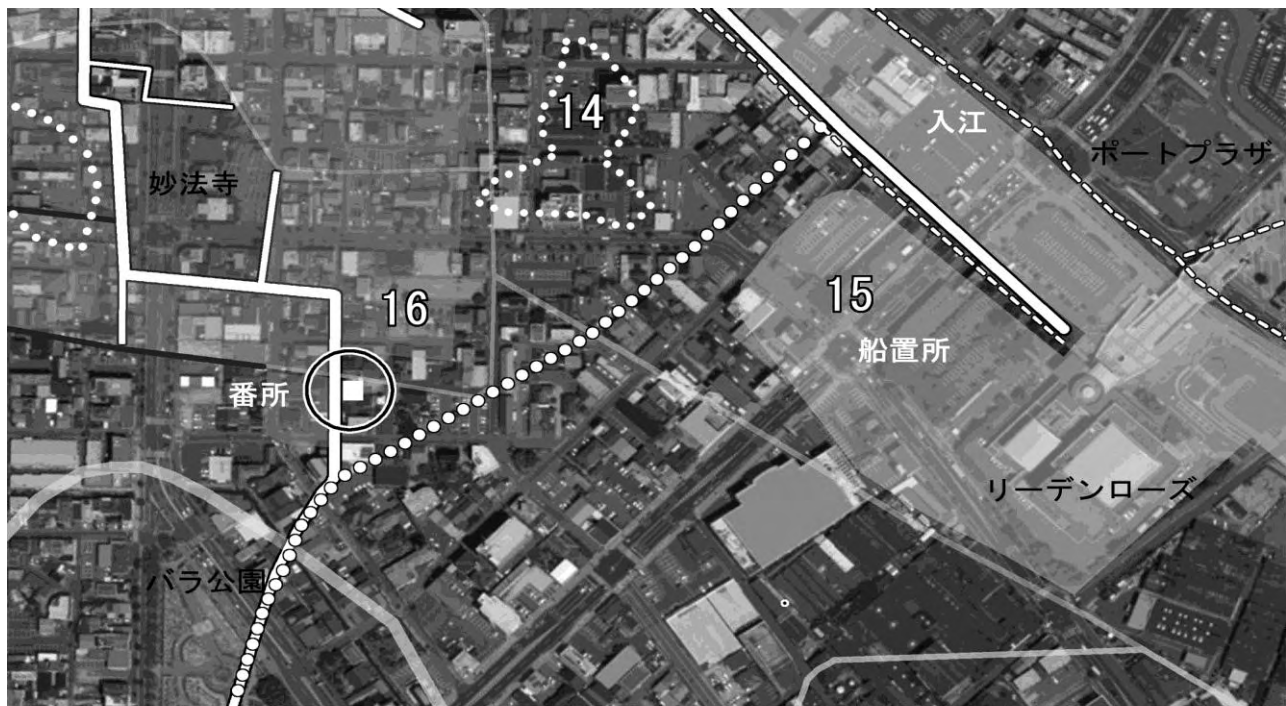
### 14. 池の跡

このあたりは、城下町以前芦田川が常興寺山南をから入江に流れ、芦田川の河口に当たっていた。その為城下町では最も低い場所であり、江戸時代初期には城下町の水が流れ込んで多くの池が出来ていた。福山の地勢はここ入り江の部分が最も低く、入り江周辺は城下町以前今の国道辺りまで潮が入っていた。そして西に行くにしたがって高くなり、草戸微高地に至る。その為城下町以南の干拓地の用水路はすべて西から入れて東へ流す構造となっている。

従って低地であるため、昭和22年時点でも人家は道に沿ってあるだけでまだ田圃が多い。



## 外堤東部詳細



### 15. 船置所跡

後に吉津川河口の座床が出来るまでは、ここが船の係留場所として使われていた。

当時福山藩は藩船100隻余り、水主300人以上(参勤交代の時には1,000人以上動員されている)を有し相当な海軍力を持っていた。正保城絵図では、住吉町、新町あたりは加子町となっていることから、この船置所の船乗りはそこに住んでいたと思われる。

御召御船、貳拾五端帆、田尻村二而出来申候、仍而田尻丸と申候、其後、祇園丸(に)御替へ被遊候、美作守様(四代勝種1663～1697)御代迄、松ヶ端御船蔵ニ繋ギ有之候。

(福山領分語伝記)

またこの船置所のあったことを示すように、大正時代まで松浜町に古座床の地名が残っていた  
その後徐々に埋まって使用できなくなっていくため、ポートプラザ南の吉津川河口に座床が作られることになった。



## 外堤中央部詳細



### 16. 妙法寺口番所跡

城下町から外に通じる道にはすべて番所が置かれていた。ここは南西にあたる部分で、霞通り東詰めから南に行くところに出る。ここは昔の道が残っている部分で城下町南限の番所があった場所。ここを出るとすぐ堤に突き当たり、それに沿って南に行くと18の部分から五本松や多治米、川口に通じる道に出る。

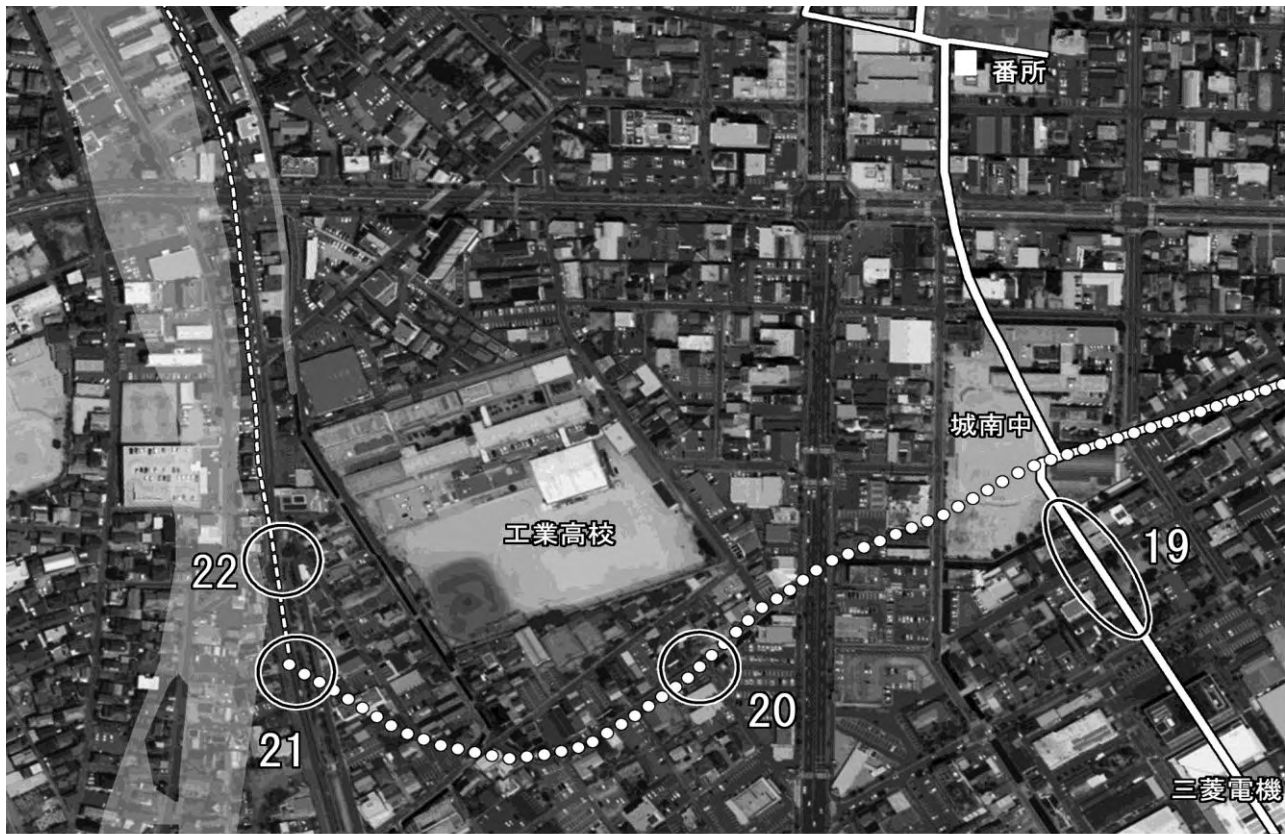
### 17. 花園地蔵尊のご神体の石

この地蔵尊自体は元の位置から移動させられているが、このご神体の石は、昔このあたりまで海であった頃、海岸にあった石と言われている。

### 18. 妙法寺口から多治米方面に行く道の跡

城下町から多治米、川口方面には2本の道があり、五本松から鞆の方に渡る道としても利用された。ここは東の道であるが、連隊、練兵場がその南に出来て道が分断され、下の写真のように昭和22年時点ですでに痕跡は無い。

## 外堤西部詳細



### 19. 光照寺口から多治米方面に行く道の跡

城下町から多治米、川口方面には2本の道があり、五本松から鞆の方に渡る道としても利用された。大手門前から南に道なりに歩いていくと光照寺前、番所を通りこの西の道に出る。やはり練兵場により分断されたが、一部のみ残っている。

### 20. 下井出川 福山新開から沖野上新田への流出口

下井出川は多治米・川口に行く水路を分岐した後、工業高校南で外堤に突き当たり、東に流路を変える。ここは沖野上新田が出来た後、沖野上新田側に農業用水を供給するために堤を横断した場所。

### 21. 鞆ノ渡「鞆渡は、五拾間但水出候時は船渡」(正保城絵図記述)

外堤西の起点で鞆への途中芦田川を越えた場所。五拾間とあるので約95mぐらいの川幅であった(旧鷹取川の川幅とほぼ同じ)。この記述からすると普段は徒歩で渡れたようであるが、水かさが増えた時のために船も用意されていた。干拓がもっと沖まで進んだ後は五本松あたりを渡るようになる。

[illegible]

大新涯(現新涯町・曙町)に用水を供給するために、ここに芦田川の水を取り入れる樋門が作られた。ここから用水路(現シンボルロード)が源七端→五間川と繋がっていた。、神島サイフォンを通した葦陽用水が整備され廃止された。現在は神島から芦田川左岸堤脇を通り小水呑橋南あたりから五間川に繋がっている。





# 備陽史探訪の会

【事務局】

〒720-0824 広島県福山市多治米町5-19-8

TEL&FAX 084-953-6157

E-mail [info@bingo-history.net](mailto:info@bingo-history.net)

公式サイト

<http://bingo-history.net>